

「平成26年度博士課程教育リーディングプログラム委員会（第2回）」議事概要

1. 日 時：平成27年3月18日（水）15：00～18：00
2. 場 所：弘済会館4階 「萩」
3. 出席者：（委 員）有信委員、安西委員、猪口委員、内堀委員、岡田委員、
奥村委員、金子委員、北山委員、岸委員、桐野委員、窪田委員、
熊谷委員、佐藤委員、新海委員、永山委員、長谷川委員、
八田委員、林委員、室伏委員、吉野委員
（文部科学省）義本審議官、塩見大学振興課長、猪股大学改革推進室長、
鈴木大学改革推進室長補佐
（事 務 局）渡邊理事、舟橋審議役、藤田大学連携課長、
吉田大学連携課長代理

4. 議事概要

- (1) (報告事項) POフォローアップ報告書・現地視察報告書について
「委員会の審議内容等の取り扱いについて」（平成23年6月6日博士課程教育リーディングプログラム委員会決定）1. 2) に関する事項につき、非公開。
- (2) 平成23年度採択プログラムの中間評価結果について
「委員会の審議内容等の取り扱いについて」（平成23年6月6日博士課程教育リーディングプログラム委員会決定）1. 1) に関する事項につき、非公開。
- (3) 平成24年度採択プログラムの中間評価について
 - ・平成24年度採択プログラムの中間評価の実施について [資料10]、評価要項（案） [資料11]、学生アンケート調査（案） [資料12]、プログラム担当者アンケート調査（案） [資料13]、中間評価調書様式（案） [資料14]、中間評価書面評価書（案） [資料15]、中間評価結果（様式）（案） [資料16]、中間評価現地調査実施要領・報告書（案） [資料17]、中間評価ヒアリング実施要領・審査表（案） [資料18]、平成24年度採択プログラム 中間評価日程（案） [資料19] について、それぞれ文部科学省及び事務局より説明があり、質疑応答の後、各資料等の修正について、委員長一任とすることで了承された。主な意見は以下のとおり。
 - このプログラムではアクティブで優秀な学生を如何に獲得できるかが成功の鍵の一つだと思うが、評価の観点として挙げられる項目が少ない印象がある。少なくとも学生を獲得するために、どのような工夫をしたか確認する必要がある。
 - 必ずしも全てのプログラムにおいて、高い競争率をもって学生が選抜されているわけではない現実があり、学生が何に期待して入ってきたのかを確認することは今後の参考になると思われる。
- (4) 採択プログラムに係るフォローアップについて
 - ・採択プログラムに係るフォローアップについて、採択プログラムに係るフォローアップについて（改正案） [資料20] と採択プログラムの平成27年度フォローアップ日程（案） [資料21] について、事務局より説明があり、質疑応答の後、各資料等の修正について、委員長一任とすることで了承された。

(5) その他

- ・事業全体に関して意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

- 大手民間企業がドクターの採用に消極的であることがかねてからの大きな課題となっている。博士人材を採用している企業も交え、なぜ日本の企業では採用することができないのか、率直な議論ができる場が欲しい。
- 現在日本にはかなりの数の、落ち着く場がない40歳前後のドクターが存在しているが、その状況は国としても損失と言える。そのような人材が社会の中で有効に活用される枠組みを見いだすことが非常に重要と思われる。
- 優秀な学生がドクターへ進学しないことも問題となっているが、就職への不安がその理由の一つとなっている。比較的ドクターにも門戸を開いている企業でも優遇ではなく、区別をしていないというレベルが現状。リーディングプログラムではもっと積極的に色々なところで活躍できる人材を輩出することが目的となっており、企業側の理解を深める必要がある。
- このようなプログラムを通して大学における Ph.D.の在り方に変化があれば、受け入れ側の企業にも変化の兆しが現れると思う。日本の企業も欧米と競争していくために、海外のドクターに並ぶ優秀な人材が不可欠であり、どのようなキャリアの人材が必要なのか、具体例をもって議論し、反映していくことが必要になる。

- ・次回の委員会は、部会における中間評価終了後に開催することとした。